

令和5年4月18日  
北九州市市民文化スポーツ局

報道機関 各位

## 北九州市オールロケ作品・光石研さん主演映画「逃げきれた夢」の 第76回「カンヌ国際映画祭」正式出品が決定しました！

北九州市は平成元年からフィルム・コミッション事業を続けてきましたが、この度初めて、北九州フィルム・コミッションの誘致・支援作品が、世界三大映画祭の一つである、第76回「カンヌ国際映画祭」ACID部門の正式出品作品となりました。

この作品は、北九州市出身の俳優：光石研さん（主演）、吉本実憂さん（共演）が出演され、北九州市を舞台に、北九州市でオールロケを行った作品です。

### 記

- 1 監督** にのみや りゅうたろう  
二ノ宮 隆太郎さん《脚本も自ら手掛け、光石研さん本人の人生を取材し、そのエッセンスを物語に注入した》
- 2 出演者** みついし けん  
光石 研さん 《主演：北九州市出身の俳優》  
よしもと みゆ  
吉本 実憂さん 《共演：北九州市出身の俳優》 他
- 3 撮影期間** 令和3年12月11日～23日
- 4 撮影場所** 北九州市内約20箇所  
西南女学院中学校・高等学校／風師公園／黒崎中央小学校／  
エスト本町商店街周辺／シロヤ／ワールドコーヒー 他

※ 詳細は別紙、株式会社キノフィルムズ様の記者発表資料をご参照ください。

※ 第76回カンヌ国際映画祭  
令和5年5月16日～27日、フランス・カンヌで開催。  
「逃げきれた夢」の上映日は今後、発表されます。

<お問い合わせ先>  
北九州フィルム・コミッション事務局  
担当：村田・上田 Tel.093-582-2389

2019年フィルムメックス新人監督賞グランプリ受賞 堂々の映画化！  
日本映画界の寵児・二ノ宮隆太郎監督、ついに商業デビュー！  
日本のエンターテインメントを支え続ける名優・光石研、12年ぶりの映画単独主演作！

逃げきれた夢

## 第76回カンヌ国際映画祭 ACID 部門 正式出品決定！ 二ノ宮隆太郎監督&主演・光石研より歓喜の声、到着！

平素よりお世話になっております。このたび、国内外で高い評価を得る二ノ宮隆太郎監督の興業デビュー作であり、光石研 12年ぶりの映画単独主演を飾る『逃げきれた夢』が第76回カンヌ国際映画祭 ACID 部門へ正式出品を果たしました。つきましては、監督を務めた二ノ宮隆太郎と主演の光石研より到着したコメントと合わせて、本情報のお取り上げをご検討いただけますと幸いです。

本作は映画デビューから45年、日本の映画・ドラマ界を支える名優の光石研が2011年公開作『あぜ道のダンディ』から12年ぶりの映画単独主演作となっており、自身の地元でもある北九州を舞台に、人生のターニングポイントを迎えた中年男・末永周平を演じる。また、物語のカギを握る周平の元教え子・平賀南には、総勢800人のオーディションを見事突破し役を掴んだ若手女優のホープであり、光石研と同じく北九州出身の吉本実憂。また、主人公の妻・彰子を坂井真紀、娘・由真を工藤遙、さらに旧友・石田を光石研本人とも気心の知れた松重豊が務めるなど、フレッシュな演技と熟練の技がぶつかり合う姿も注目ポイントとなっている。監督・脚本は俳優としても活躍の場を広げる新鋭・二ノ宮隆太郎。映画監督・瀬々敬久が審査員を務めた2019年フィルムメックス新人監督賞のグランプリ受賞作である脚本を基に二ノ宮監督自ら映画化することで興業映画デビューの切符を手に入れた。



このたび、『逃げきれた夢』が第76回カンヌ国際映画祭のACID部門への正式出品が決定いたしました。

ACID部門は、監督週間と批評家週間に並ぶカンヌ映画祭の3つの並行部門のひとつであり、1993年に芸術的な作品を支援するために映画作家たちが創設した「インディペンデント映画普及協会（ACID）」が独自に立ち上げ、作品選定・運営を行っている。この30年の歴史を持つ重要な部門では毎年世界の先鋭的な9作品を紹介しており、今年は約600作の応募作品から『逃げきれた夢』が見事正式出品作のひとつとして選出。昨年同部門に出品された『やまがき』（山崎樹一郎監督）に続けて日本で2本目という快挙を遂げた。

選定委員による『逃げきれた夢』の選定理由には「非常に深みのある作品」、「演出、そしてシーンの構築が素晴らしい。儂さを受け入れなければならないが、そこに飛び込むと、逸品が待っている。」といった本作を高く評価する言葉が並んでいる。また、二ノ宮隆太郎監督は「尊敬するキャスト、スタッフの皆さんと一緒できましたこと、そして素晴らしい環境で上映できることに感謝しかないです」、主演の光石研からは「カンヌでの上映、観て頂いた方々の反応が楽しみです。そして、個人的には我が九州弁がカンヌに轟く快感、身震います。」といった歓喜のコメントも到着。

コメント全文は下記のとおり。

### コメント全文（敬称略）

#### 二ノ宮隆太郎監督

福岡県北九州市の黒崎の街を、光石研さんと歩かせていただいたのがこの映画の始まりでした。

そこは光石研さんが生まれ育った街で、過ごされた時間への想いが、この映画に詰まっています。

北九州オールロケの作品です。撮影時には地元の皆様に本当に支えていただきました。

尊敬するキャスト、スタッフの皆さんと一緒できましたこと、そして素晴らしい環境で上映できることに感謝しかないです。

## 光石研

カンヌ映画祭、ACID 部門正式出品の一報を聞き、本当に嬉しい限りです！

この映画は、小さな町の小さな男の話です。

でも、例えば EU の小さな町の小さな男の話でもあるのです。

すなわち、グローバルな話です。

ヨーロッパの人々にも共感して頂けると思います。

カンヌでの上映、観て頂いた方々の反応が楽しみです。

そして、個人的には我が九州弁がカンヌに轟く快感、身震いします。

二ノ宮監督、良かったね！そして、ありがとう！

2/2

## ACID 部門 選定委員

非常に深みのある作品。トルストイの「イワン・イリッチの死」の登場人物や設定を現代に置き換えているようで、題材こそ新しくはないが、現代に生きる男が人生の意味に向き合う姿を描いている。それはまさに現実の狭間といえる。社会情勢が異なる 19 世紀と時は異なるが、すべてが繊細で、非常に一般的かつ重要な問題を表現している。(リナ・ツリモヴァ)

演出、そしてシーンの構築が素晴らしい。儚さを受け入れなければならないが、そこに飛び込むと、逸品が待っている。(ヴィケン・アルメニアン)

### ◎ 映画『逃げきれた夢』作品素材

- ・カンヌ国際映画祭 ACID 部門ロゴ入りポスタービジュアル：<https://xgf.nu/cr3Z>
- ・監督紹介スチール&メインサブスチール：<https://xgf.nu/Akem>
- ・予告映像データ：<https://xgf.nu/KcT4h>

### 【監督プロフィール：二ノ宮隆太郎 (にのみや・りゅうたろう)】

1986 年 8 月 18 日生まれ。神奈川県出身。2012 年、初の長編作品『魅力の人間』が第 34 回びあフィルムフェスティバルで準グランプリを受賞し、海外映画祭でも好評を博す。2017 年、監督、主演を務めた長編第二作『枝葉のこと』が第 70 回ロカルノ国際映画祭の長編部門に日本映画から唯一選出される。2019 年、長編第三作『お嬢ちゃん』が公開。同年、2019 フィルメックス 新人監督賞グランプリを受賞。『逃げきれた夢』の製作が決定する。本作が商業映画デビュー作となる。映画監督、脚本家、俳優として活動する。



### 【あらすじ】

北九州で定時制高校の教頭を務める末永周平。ある日、元教え子の南が働定食屋で、周平は支払いをせず無言で立ち去ってしまう。記憶が薄れていく症状によって、これまでのように生きられなくなってしまったようだ。待てよ、「これまで」って、そんなに素晴らしい日々だったか？ 妻の彰子との仲は冷え切り、一人娘の由真は、父親よりスマホ相手の方が楽しそうだ。旧友の石田との時間も、もっとも大切にしていない。「これから」のために、「これまで」を見つめ直していく周平だが――。

### 【作品情報】

監督/脚本：二ノ宮隆太郎 出演：光石研、吉本実憂、工藤遙、杏花、岡本麗、光石禎弘、坂井真紀、松重豊  
製作総指揮：木下直哉 プロデューサー：國貴瑞恵、関友彦、鈴木徳至、谷川由希子  
撮影：四宮秀俊 照明：高井大樹 録音：古谷正志 美術：福島奈央花 装飾：遠藤善人  
衣装：宮本まき江 ヘアメイク：吉村英里 編集：長瀬万里 音楽：曽我部隼一 助監督：平波巨 制作担当：飯塚香織  
企画：鈍牛倶楽部 製作：木下グループ 配給：キノフィルムズ 制作/ロケーション：コギトワークス  
©2022『逃げきれた夢』フィルムパートナーズ 映倫G DCP/カラー/スタンダード/モノラル/96分  
公式サイト：nigekiretayume.jp 公式Instagram：@nigekiretayume

**6 月 9 日 (金) より新宿武蔵野館、シアター・イメージフォーラムほか全国ロードショー**

パブリシティお問い合わせ先：キノフィルムズ・寺脇、仙波、鈴木、小泉 MAIL：senden-mc@kinofilms.jp TEL：03-6459-2671  
坂本理紗 MAIL：risakamo1215@gmail.com TEL：090-6932-3170